

## 事業報告書

日時	令和6年2月3日(土) 14:00~16:00
目的	<p>多様な性(LGBTQ等)について理解を深め、誰もがありのままにいられる社会実現に一助となるように、一般の方にむけて講座を開催する。LGBTQに関する用語や知識を識者の方にわかりやすく話してもらうことにより、理解を深め、性の多様性を認め、すべての人が互いに敬意を感じながら生きやすく活躍できる社会を実現できるように啓発につなげる。</p> <p>(「第6次沖縄県男女共同参画計画~DEIGOプラン~」4-2-50 性の多様性への尊重に関する取組の推進)</p>
対象	関心のある方
講師	市民団体ていーだあみ 共同代表 佐脇広平 氏 市民団体ていーだあみ 共同代表 竹葉 梓 氏
会場	ているる3階 研修室1.2
参加者数	21名 (女性18名・男性3名)
講演内容(概要)	<p>講座内容 講話 → 前半 → 後半 → 休憩 → 質疑応答 → 終了</p> <p>最初に市民活動について講師から、所属している市民団体ていーだあみについてセクシャルマイノリティを取り巻く問題を出発とした人権を考える団体であること、通年活動していることの説明があった。</p> <p>前半は、1 性の多様について、2 セクシャリティを表す言葉 3 LGBTQ+の現状 を説明した。</p> <p><b>1 「性が多様であるについて」</b> 性のありかた(セクシャリティ)は、5つあり、「・からだの性・出生時に割り当てられた性・ジェンダーアイデンティ(性自認)・表現の性・好きになる性」で、人がそれぞれ持っている性の要素は多く、それらが組み合わさることから性が多様である事を説明した。</p> <p><b>2 セクシャリティを表す言葉</b> 性はその人の人生、生活そのものの大きな要素で、「自分の性のあり方は自分で決定する」ことは重要な事だと話した。続けて、LGBTQ+やSOGIESC等様々な性のあり方を表す言葉を分かりやすく図解して説明した。言葉は変化し続け、最初は揶揄するような言葉が現在は前向きな意味として使われている事例等、言葉にはこだわらずに、何を伝えようとしているのか本人の話に耳を傾ける事が大事だと説明した。</p> <p><b>3 セクシャルマイノリティの現状</b> 性の違和感を持ち始めるのは、中学生以前が多いことから小学校からの対応が必要であるが、当事者自身もまだわからないことが多い中学ぶ機会がなく不安なまま、学校内でのいじめや暴力の被害を受ける問題がある。生活の中で、肯定的なメッセージを受けるのがまだ少ない現状があると伝えた。</p> <p>後半は、4 セクシャルマイノリティの困り事、・性自認・性的指向・カミングアウト 5 今日から出来ること を説明した。</p> <p><b>4 当事者(セクシャルマイノリティ)の困り事とは</b></p>

(性自認)

日常生活の中で戸籍上の性別をベースとしているものが多く、仕事、学校、服装、医療、トイレ、就職等様々な場面で対峙することがある。困難な状況を具体的な例を挙げて説明した。また沖縄での動きとして、那覇市役所やショッピングモールでのトイレにレインボーを標記し使用できるような動きもある事を紹介した。また戸籍上の性別の変更は出来るが、大変な時間と労力や費用が掛かりとても大きな負担となっていることも伝えた。

(性的指向)

同性による婚姻が認められていない為、パートナーとして法的な家族として認められていない。そのために受ける不利益は「パートナーとの死別、離婚、税金控除、刑事法上の権利等」様々に及んでいる。パートナーシップ制度を設置している自治体もあるが、法的効果はない。法律・制度をすぐには動かすことは出来ないが、パートナーシップ制度が話題になることで社会の中で、現状を話し一緒に考えていける人が必要で、大切であると説いた。

(カミングアウト)

カミングアウトとは秘密を話すことからきていて、小学生から大人になるまで、誰にも話さなかったセクシャルマイノリティは4割で、そのうち大人に話せたのは1割しかない。カミングアウトは当事者にとって大きな負担であり、「する・しない」「いつ」「誰に」「何を・どこまで」するのは、**全て本人が決めることが大原則**であり、もしカミングアウトをしたいといわれたら、できることとして「安心安全の確保を一緒に考える」ことがとても重要であると説明した。

5 今日からできること

レインボーグッズを飾ったりする等サポートの気持ちをみせることや、見た目や性別で決めつけないこと、どうしてほしいかは、本人と相談することが大事であると締めくくった。

一人一人が生きやすくなる為にできることを受講者は熱心に聞いていた。

講話後に、質問を受け付け、時間の範囲内で講師が丁寧に答えて終了した。



竹葉 梓氏



佐脇 広平氏

参加者の声

(自由記載欄より抜粋)

- ・解説が分かりやすく色々挙げてくださった具体例も理解の助けになりました。最近の関連本やパンフレット、メディア等の啓発も大変工夫されていて参考になり大事ですが、この講座のような機会をもっと多くの方が持てるようになれば自分事にする人も増えると思いました。
- ・セクシャルリティはこれらの要素の組み合わせ！私たち全員が多様な性を生きる「当事者」である！
- ・性の多様性については、学校現場でも、丁寧にあつかっていけないといけないと思っています。差別のない世の中であってほしいと思います。ありがとうございました。
- ・当事者の思っていることが私が思っているより辛いということ。大学で研究しているのでネットで調べている情報より更にくわしく聞くことができました。
- ・自分らしさを忘れずに自分の人生を生きる。具体的で大変よかったですと思います。

- ・「性は実に多様で豊かなもの」本日の佐脇先生と竹葉先生の講話はとても温かく、豊かなもので「性の多様性」についてもっと勉強したいと思いました。「北欧は男女のトイレがなく、すべて洗面台付個室」等世界は、どんどん先へ進んでいく。日本も、もっともっと「性の多様性」「ジェンダー平等」社会等実現を頑張っていかなければならない。更なる講座に期待します！
- ・沖縄の文化と性の多様性の話をもっとくわしく聞いてみたいと思いました。わかりやすく良かったです。
- ・性の多様性についての基本的な知識を得ることができました。二人の講師の話は最高に聞きやすく、学びとして効果が大きかったです。資料も分かりやすく、参考になりました。法律ができない現状の中で、人間として生きる道のりの苦労を思うと胸が痛く、言葉がありません。2人の講師は理解を深めるために苦労の最中だと思います。勇気を持って前進して下さい。教育の効果と法の制定との結びつきを期待します。内容はわかりやすく、理解できました。
- ・当事者の困りごとなどをきいて、自分がみえていないことがわかりました。ありがとうございました。
- ・具体的な困り事について、私も知らなかったし、知らない方が多いのでは？と思います。また、意図していない所で自身の性自認が否定される事で、存在すら否定されているような感覚になり、結果的に自死をしてしまう事を聞いて、LGBTQ+の問題にかかわらず「～であるべき」という固定的な考えに苦しむ人はたくさんいるのではないかと思います。
- ・こころの性について2択ではない思いを強くしました。
- ・丁寧なお話をありがとうございました。明日をまた生き抜きましょう。

**主催等**

主催：沖縄県・(公財)おきなわ女性財団